

令和8年 第2回定例会

いっぱんしゅもん

6月16日に、5名の議員から町行政に対する一般質問がありましたので、要旨をお知らせします。

経営所得安定対策作物別助成額 における本町設定の産地交付金 について

Q 令和8年度の町設定の産地交付金は、本町の農業の振興にどのような視点で策定されたのか伺う。
A 現状の水張り面積の維持を基本とし、収益性の高い水田農業経営の推進のため、本交付金を活用していく。



佐藤 主税 議員

在、町として把握している見直しの方向性や内容について伺う。
③見直しによる町設定の産地交付金への影響についてと、そのために必要となる生産対策について伺う。

農政課長

①町枠の産地交付金については、妹背牛町地域再生協議会水田収益力強化プロジェクトの中で設定されている。現状の水張り面積の維持を基本としながら、収益性の高い水田農業経営の推進のため、本交付金を活用していく。

設定については、小麦、大豆等の土地利用型作物には、品質向上と安定生産の取組に対する支援、花卉やシシトウ

等の高収益作物には、複合経営の手段として取組の拡大・維持のために支援している。

本単価設定については、町及び議会、農業関係団体それぞれの代表者から組織される地域農業再生協議会にて協議され決定している。

②水活交付金の見直しの内容として、作物ごとの生産性向上等への支援に転換となると把握している。米については、輸出を含めた米需要拡大を目指し、新市場開拓用米、米粉用米等を支援する。麦、大豆、飼料作物については、食料自給力向上の費用対効果を踏まえ、生産性に向けて取り組みものへの支援へ見直すべく検討する。有機や減農薬・減肥料については、主食用も対象として支援する。産地交付金については現場の実態を調査・検証した上で、中山間地域等の条件不利地域も含めて地域事情に応じた産地形成が促進される仕組みとする見直しを検討し、その予算

については、現行の交付金の見直しや再編により得られた財源を活用するなどの見直しが進められていることを現時

点では把握している。

③具体的な試算等は、現時点ではできる状態ではなく、対策についても進めることができないうのが現状である。今後とも情報収集に努めて正確な情報を生産者の方々に提供できるようにしてまいりたい。

町長

水稻の作付に傾注してきた本町としては、生産の目安を遵守した中で水田機能を維持しながら高収益作物の導入や転作物の付加価値の向上等を推進するため、産地交付金を活用する取組が重要と考える。自民党の農業構造転換推進委員会では、水田活用の支払交付金の令和9年度からの見直しの方向性の案を示しているが、支援水準等は示されていない。産地交付金は、水活の方向性で大きな影響を及ぼすことから、今後国の動向を注視しながら、近隣市町や農業関係団体との情報交換等しながら連携し、生産者の方々に正確な情報をスムーズに提供できるように努めていく。

空知中央バスのダイヤについて

Q 利用実態を踏まえて、増便もしくは時間変更について、バス会社に打診要請をできないか伺う。

A 利用者等のご意見を踏まえながら、空知中央バスへ利用者の声をお伝えしていきたい。

佐藤議員 深川市立病院前発

の増便もしくは時間変更について伺う。

①利用実態を踏まえて、午前9時発から午前12時発、午前12時発から午後4時発のそれぞれで1便の増便もしくは時間変更について、バス会社に運行の打診要請はできないか伺う。

②バスの増便、時間変更について老人クラブや社会福祉協議会、高齢者団体等にバス利用のアンケートなどを行う考えがないか伺う。

企画振興課長

①深川滝川線の運行については、利用実績や運転手不足、運行経費などを総合的に勘案し、ダイヤを設定しているものと認識している。増便や時間変更につい

日頃寄せられる利用者の声の把握に努めながら、必要に応じて運行事業者と情報共有を図り、町民の皆様の移動手段の確保に努めていく。

町長

深川市立病院への通院は、本町の高齢者にとって日常生活を支える重要なものであり、待ち時間や乗り継ぎ、移動距離の負担などの不便を感じている方がいることについて、充分認識させていただいた。町ではこれまでも移動支援の充実に取り組んできたが、それだけでは解決できない課題もあると考える。

意見聴取やアンケート調査については、現時点で実施を決定していないが、高齢者の移動実態や要望把握は重要だと思うので、老人クラブや社会福祉協議会をはじめ、関係団体等の日常的に寄せられるご意見などを通じて実態把握に努めていく。その上で必要に応じてどのような手法が適切であるのか検討し、公共交通事業者とも情報共有を図りながら、高齢者をはじめ、町民の皆さんの移動手段の確保に努めていく。

町技と町づくりについて

Q 町技が、ソフトボールとバレーボールに制定されているが「町技」についてどうお考えか伺う。

A 現在の両競技の活動状況なども鑑み、関係各位のご意見をいただきながら改廃について検討・協議の上、必要な提案をさせていただきたい。



渡辺 倫代 議員

渡辺議員

①妹背牛町スポーツ振興条例によって、町技が、ソフトボールとバレーボールに制定されているが、条例は平成18年に廃止され、現在は町技に係る根拠法がなく、前回の一般質問から10年が過ぎようとしている。町長は、「町技」に関してどのようなお考えか伺う。

②屋内専用施設がある町として「カーリグのまち妹背牛」をアピールしていかにかーリングを地域の活性化に繋げるか、町長の具体的な方針、施策を伺う。

副町長

①本町の町技について、スポーツ振興条例は、スポーツ振興基金の枯渇など様々な事由により廃止となったが、その際、町技については必要性からそのまま残し、引き続き振興していく選択をした。いまだに根拠規定の整理が行われていないことについてはいずれかのタイミングで適切な制度整理が必要であったと考えている。

また、現在の両競技については、一般の競技団体がいずれも解散し、妹背牛町スポーツ協会への加盟もされていない状況なども鑑み、関係各位のご意見をいただきながら本規定の改廃について検討し、今後必要な提案をさせていただきたい。

②カーリングについては、妹

背牛カーリング協会や関係者が中心となり、数多くの全国規模の大会を開催、競技力の向上にも尽力され、世界レベルの選手を輩出してきた。また、施設利用は、道内外の世界トップレベルの競技者から愛好者、観光客まで幅広く、多い年で1万人を超える。

現在は、カーリングホールを単なるスポーツ施設としてではなく、住民の交流、地域の活性化、観光振興にも寄与する重要な拠点施設として位置づけており、第3期妹背牛町まち・ひと・しごと創生総合戦略基本目標の2「妹背牛町への新しい人の流れをつくる」の施策にも組み込んでいくことから、カーリングはお米や温泉と並び本町を特徴づける重要な地域資源の一つであり、カーリングのまち妹背牛として積極的なPRに努めている。今後まちづくりや地域活性化の中心的役割を担う競技・施設として、本町の魅力を発信する有力なコンテンツとしてその振興に努めていく。

町長

バレーボール、ソフトボールについては、現在の両競技の活動状況なども鑑み、関係各位のご意見をいただきながら廃止を含めた見直しについて検討、協議の上、近いうちに必要な提案をさせていただきたい。

「カーリングのまち妹背牛」を進めていく具体策については、建設から23年が経過している専用施設を健全な維持管理と安定した運営に取り組むため、財源確保に努めながら施設の修繕など整備を継続していく。また、協会とも連携を図りながら愛好者の拡大、近隣自治体を中心とした広域での取組、全道・全国規模の大会招致による施設利用者の拡大、さらにはマスメディアやSNSを活用したPR活動を意識し、修学旅行や団体利用客の獲得、ふるさと納税における体験型返礼品の活用、応援大使である女子カーリングチームフォルティウスとの連携など、カーリングを核とした交流人口の拡大にも取り組んでいく。今後も温泉と並ぶ本町の重要な観光資源として大切にしながら、

競技振興のみならず地域活性化や観光振興にもつなげ、

カーリングの町妹背牛の発展に努めていく。

地域交通について

Q 需要に応じた住民の生活に必要な町内の交通輸送サービスの導入を検討、実現に向けて進めていくべきであると考えが考えを伺う。

A 既存制度の利用状況や住民ニーズを把握しながら、本町に適した移動支援の在り方について検討を進めていく。

渡辺議員

① 当町の生活関連施設は市街地に集積しており、需要に応じた住民の生活に必要な町内の交通輸送サービスの導入を、新たな地方創生事業として検討、実現に向けて進めていくべきであると考えが考えを伺う。

② 1市4町での北空知地域公共交通の連携は、一期目五年が終わろうとしているが、取り組みの進捗状況が伝わってこない。北空知の広域公共交通に関して、実のある協議会活性化を働きかけていただきたいが考えを伺う。

③ 妹背牛町はこれまでも空知中央バスへの運行助成、また今年度からはバス購入助成を

行っていることを鑑み、住民の声である深川・妹背牛間の増便、時間帯の変更など要望・交渉していただきたいが考えを伺う。

企画振興課長

① 新たな交通サービスの導入については、費用対効果や持続可能性を充分検討する必要があるため、まずは既存の公共交通の維持、確保を基本としながら、住民ニーズの把握に努め、既存の助成制度、タクシー助成や商工会のお買物おもてなし事業を継続し、近隣自治体におけるデマンド交通や予約型乗合交通などの先進事例についても情報収集を行い、本町

に適した移動支援の在り方について研究していく。

② 北空知1市4町における広域での地域公共交通について、北空知地域公共交通活性化協議会では地域公共交通計画に基づく協議を進めており、住民生活に必要な交通手段の維持、確保に向けた検討を行っている。妹背牛町は該当しないが、令和8年4月1日に廃止されたJR留萌本線の代替交通をはじめ、北空知地域の地域公共交通はさまざまな形で進められていることから、利便性の高い地域公共交通を持続的に確保するため地域公共交通利便増進実施計画を策定する予定となっている。新たな交通体系となる空知中央バスの沼田線や道北バスの沼田深川線などの運行の在り方、北竜町のひまわり深川便などのデマンド交通について検討する予定となっており、各自治体の交通実態や利用状況の把握、公共交通網の維持に向けた協議を継続している。本町としても住民の皆様が安心して暮らし続けることができるよう、広域的な連携を図りながら持続可能な公共交通の確

保に努めていく。

町長 町内移動について、郊外地区に居住される方々にとつては買物や金融機関の利用、温泉施設の利用など日常生活における移動の確保も重要な課題であると認識をしている。そのため、既存制度の利用状況や住民ニーズを把握しながら、本町に適した移動支援の在り方について検討を進めていく。

北空知1市4町については、各町の担当者や関係機関による会議を開催し、地域公共交通を取り巻く課題や利用実態、今後の交通需要等について情報共有を行っており、JR留萌線廃止後の交通体系、路線バスの維持・確保、高齢者等の移動手段の確保、運転手不足への対応、広域的な移動需要への対応などについて議論している。しかしながら、各町の交通事情や地域特性が異なることから、現時点では広域デマンド交通や共同運行事業の実施に至っていない。今後は、引き続き北空知地域全体の持続可能な公共交通ネットワークの構築に向

け、関係自治体と連携しながら取り組み、町独自の移動手段の確保についても検討する。

空知中央バス深滝線については、本町にとつて重要な公共交通機関であり、深川市立病

院前発の昼時間帯等の利便性向上については、今後も利用実態や住民ニーズを踏まえながら空知中央バスに対し、増便は難しいと思うが、時間調整などについて要望していきたい。

防災行政について

Q 新たな防災気象情報の内容周知などをどのようにお考えか伺う。

A 広報もせうし5月号にて周知し、パンフレットも全戸配布を行った。今後も町民の皆様が適切な避難行動が取れるよう町民への周知に努めていく。



鈴木 正彦 議員

鈴木議員

本町の防災対策は、災害備蓄庫設置やその中の備蓄品の管理を含め、防災無線の整備など着々と進んでおり、避難訓練等々も行われている。

①福祉避難所で以前に行われ

政無線戸別受信機の設定件数はどれくらいなのか伺う。

総務課長

①福祉避難所を想定した避難訓練については、令和5年10月21日に保健センターで行っており、40名ほどが参加し、終了後に21名の方からアンケートの回答をいただいた。

訓練については大変良かったという意見が大半を占め、やや不満は2名だった。今後の訓練の在り方については、地域や内容を限定して実施してほしいとの意見が最も多い結果となっており、要望に応じて町内会単位での訓練の実施にも対応していく考え。非常食の調理体験、試食に関する回答では「おいしい」と評価をいただいたが、味や量、種類についての意見があったので、非常食購入の際に参考

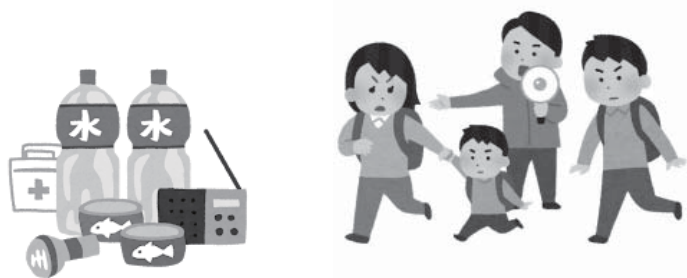
にしている。他にも発熱者への対応スペースが手狭ではないか、和室でも段ボールベッドを設置した方がよい、避難者受入れで状況把握に時間がかかり過ぎているなどの意見もいただいた。

これらの意見を踏まえ、適

切な避難所運営が行えるよう引き続き関係団体と連携しながら進めていく。

②新しい防災気象情報について、広報もせうし5月号にて周知し、気象庁からのパンフレットも全戸配布を行った。今後も町民の皆様が適切な避難行動が取れるよう町民への周知に努めていく。

また、防災行政無線戸別受信機の設定状況については、令和8年5月末時点で554台の貸出しをしている。



温泉、公園、カーリングホールの導線・駐車スペースについて

Q 公園やカーリングホールの帰りに温泉へと導く手だての考えはないのか伺う。

A 昨年度はパンフレットやメディア、雑誌等で、公園と温泉をセットにした周遊を促してきた。今年度からは、こどもパスポートやデジタルツールと併せ、取組を継続していく。



佐々木 和夫 議員

佐々木議員

昨年、今年と2回にわたり議員カフェを開催し、沢山のご意見を頂いた。

その中で「温泉、公園、カーリングホールの導線が途切れている、駐車スペースが少ない」の問いにカーリングホールの駐車場の利用してほしいと答えていたが、駐車場だけの問題ではなく、町外から来た方には温泉への道筋も分かりづらい、観光を目的としている施設では致命的なことだと思う。夏場には、たくさん

の家族連れが公園で一日を過ごしている。公園やカーリングホールの帰りに温泉へと導く手だての考えはないのか伺う。

企画振興課長

公園と温泉を

結ぶ新たな通路整備については、用地条件や整備費用、維持管理費などを総合的に勘案する必要がある、現時点で具体的な整備計画はないが、利用者の利便性向上の観点から、既存の通路を活用した誘導方法について検討していく。

施設間の誘導については、パンフレットの配置や昨年度の温泉リニューアルに合わせたメディア、雑誌等によるPRを通じ公園と温泉をセットにした周遊を促してきた。今

年度からは、こどもパスポートの再開も予定しており、ライン等のデジタルツールと併せ、周遊を促進する取組を継続していく。駐車場については、公園の駐車場が手狭なた

応援大使を通しての本町の魅力発信について

Q 本町の応援大使はどのようなPR活動を行っているのか伺う。

A テレビ番組でのPR発信や町民まつりへの出演など、大使の知名度や発信力を活用し、交流人口の拡大と地域の活性化に貢献していただく。

佐々木議員

令和12年までを

期間とする第3期妹背牛町まち・ひと・しごと創生総合戦略が策定された。町政執行方針と総合戦略において人の流れを作ることに注視している。本町には応援大使が個人1名と1つの団体がいるが、この方たちを通して具体的にどのようなPR活動されているのか伺う。

め、カーリングホールの駐車場の利用を案内している。また、新たな用地確保については、財政的な課題もあり、現段階では既存の敷地を最大限活用する運用を継続していく。

企画振興課長

本町の応援大

使である山下彩耶さんとカーリングチームフォルティウスの皆様にはそれぞれの活動を通じて本町の魅力発信にご協力いただいている。大使に町をPR、応援してもらい、大使を町としても応援することで相互に連携を深めている。今年度は7月8日に山下さんが出演されるテレビ番組において本町を舞台とした撮影が予定されており、番組を通

じて本町の観光資源や地域の魅力を道内外へ広く発信できると期待している。また、8月9日に開催予定の町民まつりでは、山下さんが所属するグループによるライブの開催を予定しているほか、フォルティウスの皆様にもご出演いただく予定となっており、町民との交流はもとより、町外からの来訪者増加にもつながると考えている。こうした活動機会を活用し、SNSやホームページなどと連動させながら本町の魅力発信を強化していく。また、観光情報と併せてふるさと応援寄附制度や移住・定住に関する情報も発信することで本町に関心を持つていただくきっかけづくりを進めていく。今後も応援大使の知名度や発信力を活用しながら本町の魅力を効果的に発信し、交流人口の拡大と地域活性化に努めていく。



家屋のアスベスト問題について

Q 町所有の建物にアスベスト建材が使用されている建物はあるのか伺う。

A 平成17年度に全26施設で吹付けアスベストの調査を行い、2施設で除去工事を行ったことから、現在、本町の公共施設に吹付けアスベストはない。



田中 春夫 議員

田中議員

本町のアスベストに対する安全対策について伺う。

①本町所有の建物にアスベスト建材が使用されている建物はあるのか、使われている場合は既に除去されているのか伺う。
②家主や周辺住民の安全のため、個人家屋に対するアスベスト調査費やアスベスト含有家屋の解体費用助成はあるのか伺う。

建設課長

①本町の公共施設については、石綿障害予防規

則が制定された平成17年度に全26施設で吹きつけアスベストの調査を行い、2施設で確認、同年度中に除去工事を行ったことから、現在、本町の公共施設に吹付けアスベストはない。

副町長

②本町では、老朽化した住宅等の除却を促進するため、国の補助金を活用しながら住宅撤去費助成制度を設けている。この制度では、住宅等の解体をする際、法令に基づきアスベストの事前調査を実施することを要件としており、その調査費用についても対象経費に含まれている。また、商工会の住宅リフォーム助成事業についても改築・改修に含まれる調査費用及び処理費用は対象となる。しかし、解体や改築を伴わない個

人住宅のアスベスト調査費用や除去のみを目的とした工事に對する助成制度は本町には

ない。今後も国や道の制度動向を注視しながら、必要な情報収集に努めていく。

高齢者世帯の独り暮らしや高齢者夫婦世帯の対応について

Q 独り暮らしや高齢者夫婦世帯の生活サポートに對して町はどのような対策を考えているのか伺う。

A 公的な医療や介護サービス以外の部分を町や社会福祉協議会、NPO法人などと連携しながら必要な人に提供している。

田中議員

本町において少子高齢化の進展、人口減少により今後の高齢化率は上昇すると見込まれ、独り暮らしや高齢者夫婦世帯、認知症の方が増加している。

①独り暮らしや高齢者夫婦世帯の生活サポートに對して町ではどのような対策を考えているのか、具体的に伺う。
②高齢者夫婦世帯、独居高齢者から生活においてのお困り事などの相談件数がどれくらい寄せられているのか伺う。

健康福祉課長

①生活サポートについては、経済的な支援

として、水道料金の助成や福祉灯油助成、在宅の介護保険サービスに對する利用者負担額の助成などを行っている。

外出や通院の支援としては、交通費の助成、要介護2以上の方に對する通院支援として外出支援サービス、商工会の買い物へのタクシー助成、診療所での送迎サービスなどを行っている。食事への支援としては、民間事業者へ委託している配食サービスに加えて見守り支援も兼ねている。除雪支援としては、福祉除雪サービスを高齢者事業団に委託し実施している。緊急時の

備えとしては、自宅への緊急通報システム設置や認知症の方への徘徊対策として、SNSネットワークといった警察や関係機関との連携体制を取っている。ちょっとした身の回りのお手伝いについては、ごみ出し、蛍光灯の付け替えなど困り事のお手伝いについて、社会福祉協議会のボランティアのサービスなども行っている。このように公的な医療や介護サービス以外の部分を町や社会福祉協議会、NPO法人などと連携しながら必要な人に提供している。

②地域包括支援センター運営協議会の昨年度の実績の資料によると、令和7年度の相談受付件数は3,722件で前年度より81件の増となっており、その相談の受付形態は訪問と電話がほぼ9割となっている。相談の内容としては、身体や健康面等の困り事や介護保険制度に関する問合せや現在利用している介護サービスについての内容がほとんどで、高齢者本人とは限らず、高齢者の家族や地域住民、医療機関からの情報提供などの相談が寄せられている。その

妹背牛町議会はYouTubeで配信しています

妹背牛町議会ではYouTubeにて定例会での各議員の一般質問を本会議終了後に公開しています。お気軽にご視聴ください。



妹背牛町議会 YouTube [検索](#)

他の相談窓口としては、社会福祉協議会やわかち愛ひろばにある「まちかどステーション」も木曜日と金曜日に開設して相談を受け付けている。また、民生委員の訪問活動を通じて困り事があれば町のほうへ伝達していただく体制にもなっている。相談の内容が複雑かつ複合化されている場合には、関係機関と連携を図っていく重層的支援体制整備事業を社会福祉協議会へ委託している。

議会のうごき



5月

8日 地域農業再生協議会
農業振興推進協議会
商工会通常総会
栗山町議会基本条例制定20周年記念行事
議会運営委員会
町議会第1回臨時会
議員協議会
総務厚生常任委員会
経済文教常任委員会
全国町村議会議長・副議長研修会
北空知議会議長連絡協議会総会
妹背牛中学校体育大会

6月

6日 妹背牛小学校大運動会
9日 北海道町村議会議長会定期総会
10日 議会運営委員会
15日 戦歿者追悼式
16日 町議会第2回定例会
議員力フェ実行委員会
広報特別委員会
議会改革特別委員会行政視察
23日 J A 北いぶき役員と議員との懇談会
25日 北空知消防演習
29日

7月

2日 北海道町村議会議長会議員研修会
3日 及び管外視察
8日 妹背牛消防演習
15日 空知町村議会議長会議員研修会
21日 議長杯パークゴルフ大会
22日 広報特別委員会
23日 議員力フェ実行委員会
地域農業の未来を考える勉強会
北空知議員研修会及び親睦交流会

議会だよりに対する、ご意見、ご要望は

議会事務局へ

T E L 0164-34-8586 (直通)

F A X 0164-34-8587 (直通)

◎ 9月定例会のお知らせ◎

会 期 9月8日～9月9日

一般質問 9月8日

9時開会予定です

場 所 役場3F 議場